新課程に向けて**描**く

「学校教育デザイン」

生徒が成長のサイクルを回せるよう、卒業までの到達目標を基に自己評価を行う仕組みを構築

静岡県立沼津工業高校

アウトライン

GPを策定し、指導改善に生かす

地域の要望を聞き取り、グランドデザインとGPに反映

2020年度、静岡県立沼津工業高校は、管理職のリーダーシップの下、グランドデザインとグラデュエーション・ポリシー（以下、GP）の作成に着手した。

まず、全教師を対象に、生徒の強みと弱みに関する自由記述形式のアンケートを実施し、回答をテキストマイニング（＊1）で分析。その結果から、強みは「素直」「元気な挨拶ができる」、弱みは「積極性に欠ける」「基礎学力が定着していない」といった生徒像が浮かび上がった。

次に、保護者や同窓会、地元企業を対象にアンケートを実施。「表現・発信力」「行動力」「知力・学力」など、一般的に重要とされる16の資質・能力を示し、同校の卒業生に求める度合いをそれぞれ4段階で回答してもらった。校内でも、教科団ごとに議論した上で、各資質・能力の必要度を4段階で示した。

それらの結果を踏まえ、目指す生徒像を、「21世紀を生きる有徳のエンジニアの育成～他人のために汗を流せる人になる～」と定め、グランドデザイン（＊2）を作成。GPに盛り込む資質・能力は、アンケートで上位だった資質・能力を参考に、「自己管理力」「INPUT・OUTPUT力」「協働力」「行動力」「職業人倫理観」「進路基礎学力」とした。学校外にもアンケートを実施した理由を、教務主任の篠田直弥先生は次のように語る。

「本校では近年、志願者の確保が課題です。本校の魅力が低下している要因には、地域のニーズと本校の教育との間にずれがあるのではないかと推測し、地域が本校に求めていることを正確に把握してGPに反映しようと考えました」

実際、地元企業へのアンケート結果を見ると、教師が最も重要視していた「知力・学力」は最下位で、上位には「協働力」が上がっていた。ただ、学力と採用率には相関が見られることから、企業が一定以上の学力を求めていることは明

＊1 テキストデータの分析方法の1つ。文章の中の単語や文節を判別・分類し、定量的な要素を抽出したり、相関関係を見いだしたりする。　＊2 グランドデザインは、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト（https://berd.benesse.jp/）からダウンロードできます。「HOME →教育情報→高校向け」でご覧ください。

SCHOOL PROFILE

設立　1939（昭和14）年

形態　全日制・定時制／機械科、電気科、電子ロボット科、建築科、都市環境工学科／共学

生徒数　1学年約200人（全日制）

2021年度進路実績（現役のみ）

国公立大は、長岡技術科学大、鹿児島大に2人が合格。私立大は、東海大、東京工科大、東京都市大、神奈川工科大、神奈川大などに延べ29人が合格。短大・専門学校進学16人。就職143人。

らかであるため、GPに「進路基礎学力」も盛り込んだ。

「沼工GP自己評価」で成長サイクルを自分で回す

21年度は、GPとして設定した6つの資質・能力の卒業までの到達目標を示す「沼工GP自己評価」を作成した。冬季休業前には、生徒に試行版（**図1**）を提示。生徒は、各目標の自身の到達度を3段階で評価した。渡森和彦副校長は、そのねらいを次のように説明する。

「生徒が自身の現状を認識することで課題を明らかにし、それを意識して日々の学習に取り組み、生活を送ることで、成長のPDCAサイクルを自分で回すことができるようになります。そしてそれが、GPに定めた『自己管理力』の育成につながると考えています。今後、『沼工GP自己評価』を用いた自己評価を定期的に実施する予定です。キャリアパスポートも、この自己評価を基にすることで記入しやすくなるでしょう」

生徒の自己評価の結果はデータ化し、教師が変容を分析して、自身の指導を振り返るツールとしても活用する予定だ。

図1「沼工GP自己評価」（試行版、記入例）

	6つの力		自己評価基準　a:★★★　b:★★☆　c:★☆☆	評価1	
沼工グラデュエーション・ポリシー	1 自己管理力	b	①家庭や学校において時間を守り、規則正しい生活ができる（睡眠時間や家庭学習時間の確保を含む）	時間	A
		b	②自身の健康状態を維持増進するため、食事管理（3食）や適度な運動を実践できる	健康	
		a	③交通ルール遵守や、工業機器操作手順の厳守を含め、自己の安全を守るための行動ができる	安全	
		a	④スマホ等（SNS）が情報モラルや利用マナーを守ることができる	倫理	
	基本的生活習慣を確立し、健康と安全を意識して自己管理する				
	2 INPUT OUTPUT力	b	①授業や実験において、話を聞き入れ、よく聞くことができる	傾聴	B
		b	②相手に入手した情報を、簡潔を保って的確表現しながら正しく理解し、活かすことができる	表現	
		b	③自分の意見を、具体的な理由を示しながら、理解されやすい手法で説明することができる	発表	
		b	④自分の意見を主張しつつも、相手の意見にも耳を傾け、自己の意見を協働できる	対話	
	相手の言葉や各種情報を正しく聞き・読み、自分の考えをわかりやすく相手に伝える力				
	3 協働力	a	①所属する組織（クラス、学年・学科・部活）のルールを守ることができる	規律	S
		a	②互いに助け合いながら、誠実に活動しながら、組織の中で協同作業に生活することができる	協働	
		a	③毎年の状況を理解し、相手の立場に立って考えながら円滑コミュニケーションをとることができる	理解・共有	
		b	④職場・インターンシップ・就職活動・実習・学校行事などの場で、自己の役割を果たすことができる	役割	
	他者の価値観を尊重しつつ他者と協働しことを成し遂げる力				
	4 行動力	b	①目標の設定（長期など）、日々やるべきことを確実に実行できる（学習時間確保を含む）	学習	C
		c	②やるべきことを自分で見つけ出し、率先して行動できる	積極	
		c	③自分が掲げる目標を達成するために計画的に行動できる	計画	
		c	④自分の状況を実践的に個人課題、自己成長視へ向けて適切な方法を選択し、行動できる	自己評価	
	自分の掲げる目標を達するために主体的かつ計画的に実行する力				
	5 職業人倫理観	a	①工具・実験機器や私品の整理・整頓・清掃をすることができる	3S	A
		b	②車に対する法令を遵守するだけではなく、十分理解し、自身を正しく理解し、自身が持つ心行動ができる	法令遵守	
		b	③生活において「ON」「OFF」がはっきりと行動し「報告・連絡・相談」を確実にできる	報連相	
		b	④「将来可能な社会の需要」という視点から、電気・エネルギーの有効活用、環境保全に向けた課題や行動ができる	環境	
	職業的・社会的な秩序や規律に対して適切に対応していく力				
	6 進路基礎学力	a	GTZ（学力到達ゾーン）　就職（例）　大学・短大（例）　専門学校（例）	GTZ	C3
		7	A1・A2・A3・B1・B2ゾーン　大学全体・分野系　国公立大学・中堅私大		
		6	B3　就職に有利な学力レベル		
		5	C1・C2　事務職のある仕事　地元私大レベル　看護・医療系各種レベル		
		4	C3　高卒の場合に求められる学力レベル＝高校生基礎学力	評価2	
		3	D1　基本的な読み・書き計算（分数・比率）ができる学力レベル		
		2	D2　最低限の読み・書き・計算ができる学力レベル		
		1	D3　就職後の仕事や進学後の授業についていけない可能性がある		
	基礎力診断テストの結果から、自分の基礎学力の状況を把握し、自分の希望進路へ向けて努力する力				
社会人基礎力【総合評価】※3				17／27点	
卒業までにすべてA以上（基礎学力：C3以上）、総合22点以上を目指す！					
【これまでの成果と課題】※自己評価を a～c で記入し、評価の理由を記述する。					
クラスでの活動（※クラス役員・係を含む）		a	教科係の仕事を忘れずに行い、配布物や回収物の仕事も確実に行った。		
生徒会での活動（※生徒会行事（沼工祭等）を含む）		b	体育祭では応援に努力した。委員会活動では、○○委員としての活動である○○○を確実に果たすことが出来た。		
学校行事（防災訓練等）での活動		c	防災訓練では、訓練を真剣に受けることができず、避難時にも無駄話をしてしまった。これからは自分や家族の命を守るためにも、もっと真剣に取り組みたい。		
その他の活動（※部活動・ボランティア活動を含む）		a	○○部の活動では、休むことなく部員的に活動し、自己の記録を伸ばすことができた。また、部活動を通して地域を理解的にする管理を身に付けることができた。		

※学校資料をそのまま掲載。上図の全体像は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト（https://berd.benesse.jp/）からダウンロードできます。「HOME →教育情報→高校向け」でご覧ください。

各特別活動で育成したい資質・能力を明確にし、一覧化

ホームルーム活動や学校行事などの特別活動についても、育成を目指す資質・能力を設定し、「教育課程編成表」を作成した。それは、GPに掲げた6つの資質・能力に、「課題発見力」「課題解決力」「創造力」などを加え、各活動でどの資質・能力を伸ばすのか、その関係を示した一覧表（**P.24図2**）であり、22年度から運用予定だ。

「これまでも学校行事などの実施後には、担当教師が集まって振り返りを行っていましたが、そこで話題になるのは、活動を滞りなく進行できたかといった運営面が中心でした。本表で、各活動で育成を目指す資質・能力を明確にしたことにより、今後は、それらの

資質・能力を意識した活動計画の立案と実施後の振り返りができるようになります。特別活動の質も、コンテンツ重視からコンピテンシー重視へと転換を図っていきます」（渡森副校長）

22年度入学生からは、指導要録の特別活動に関する記入欄が変更になる（＊3）が、「教育課程編成表」を活用して活動・学校行事ごとの評価の観点を設定し、生徒にも適切に自己評価させていく考えだ。

また、20年度の臨時休業のように、教育活動の精選が必要となる事態が起きたとしても、同表を踏まえれば活動の精選を適切にできると、篠田先生は語る。

「資源が限られる中、生徒の様々な資質・能力を育むためには、複数の目標の達成を目指せるような活動に絞ることも必要です。生徒も、1つの活動で多様な資質・能力を身につけることができると分かれば、活動への意欲が高まるのではないかと期待しています」

図2　2学年 教育課程編成表 特別活動（抜粋）

凡例：クラス活動／生徒会活動／学校行事／その他の活動

				登下校指導（[illegible]）	遅刻指導	挨拶の励行	服装頭髪指導	クラス係活動	委員会活動	清掃活動	[illegible]
			学習時期	通年	通年	通年	通年	通年	通年	通年	通[illegible]
HOP	基本を磨く	自己管理力	基本的な生活習慣が整っている	◎	◎	○		○		○	
			安心安全な行動ができる	○						○	
			健康維持と体力向上への高い意識		○		○				
		職業人倫理観	職業意識向上による学びへのモチベーションが高い								◎
			規範意識・人権感覚が醸成されている			○				○	
			工具・実験器具や私品の整理整頓をすることができる			○	◎			◎	
		INPUT力	授業や集会において、話をする人に注目し、よく聴くことができる								
			幅広く入手した情報を、根拠を持って取捨選択しながら正しく理解し、活かすことができる								
		協働力	他者の価値観を尊重しつつ、他者と協働し一つのものを成し遂げることができる			◎		○	○	○	
STEP	実行力	行動力	自分の掲げる目標を達するために主体的かつ計画的に行動することができる		○						◎
		OUTPUT力	自分の考えをわかりやすく相手に伝えることができる			○					
		論理的思考力	客観的データや先行研究を踏まえ自らの理論を筋道立てて構築することができる								
JUMP UP	創製力	課題発見力	複数の状況や資料から改善克服すべき課題を設定することができる					◎	◎		○
		課題解決力	解決のための仮説を立て、それを実証するために行動することができる					○	○		○
		創造力	それまでなかったものをつくりだすために発想することができる								
総合評価：◎＝2点、○＝1点 ※得点の高いものは、本校での重要特別活動。※低いものは、削減対象 or 再構築検討必要。				3	4	6	3	5	4	6	[illegible]

※学校資料を抜粋して掲載。上図の全体像は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト（https://berd.benesse.jp/）からダウンロードできます。「HOME→教育情報→高校向け」でご覧ください。

ブレークスルー

情報共有のボードで同僚性を醸成

新学習指導要領の目的やポイントを職員室通信で解説し、浸透を図る

グランドデザインとGPの作成に着手した20年度の初めは、臨時休業と重なった。大半の教師が在宅勤務となる中、渡森副校長は、新学習指導要領の目的やポイントを解説した職員室通信を3回にわたってGoogle Classroom（＊4）で配信。教師からの感想や質問も学校全体に共有した。

「新学習指導要領で求められていることを教育活動の中で具現化するためには、教師一人ひとりがその目的をしっかりと理解し、意欲的に取り組むことが鍵になると考え、配信しました」（渡森副校長）

学校再開後の職員室通信には、主体的・対話的で深い学びを実践する授業を紹介し、新学習指導要領で求められる授業を具体的にイメージできるようにした。現在は、静岡県立裾野高校、同掛川工業高校と合同の職員室通信を配信し、学校を超えて先進的な授業を共有している。教務部の伊郷明敏先生は、訪問しなくても他校の事例を知ることができて有益だと語る。

「例えば、ICTを活用した課題の提示の方法など、本校では行っていない工夫が分かり、自身の授業改善の参考にしています」

教師の同僚性を醸成し、教育の質を高めていく

職員室には、渡森副校長が自ら「ディスカスボード」（以下、ボード）と名づけたホワイトボードを設置した。「進路指導」「成年年齢引き下げ」などのテーマについて、各

＊3　各校が設定した評価の観点を記入した上で、活動・学校行事ごとにその観点に照らし合わせて、十分満足できると判断されれば○印を記入する形式となる。
＊4　教師が出す課題の管理をサポートするツールで、課題の配信と採点、フィードバックの提供などの機能がある。

教科・学年・分掌が実施する取り組みを自由にボードに書き、教師間で共有。さらに、書かれた内容を整理し、そのテーマについて、どの時期に、どのような学習を行っているのかを俯瞰する教科横断型カリキュラムマップを作成している。今後、教科・学年・分掌間で、取り組みの実施時期や内容を調整し、3年間を見通した、より系統的な教育活動へと深化させる予定だ。

「ボードに書かれた内容を見ると、先生方が、それぞれの立場で工夫して活動していることが分かります。自分が担当する学年や教科、分掌では『こんなことができそうだ』と気づき、実践するなど、視野を広げるツールになっています」（伊郷先生）

渡森副校長は、ボードには同僚性を醸成する目的もあるという。

「ボードは、教師が日頃集まる場所に設置しました。隙間時間に書き込まれた内容を見ながら雑談し、教師間のつながりが深まったり、新たな発想につながったりすることを期待しています」

アップデート
地域と一体となって、生徒を育む

地域から人材を招くとともに、生徒が地域に出て貢献する

今後は、地域連携に一層力を入れていく。社会に開かれた教育課程の一環として、22年度、学校運営協議会を発足させ、地域の人々が学校運営により深くかかわる仕組みを整備する予定だ。

そして、高校も地域を構成する一員として、地域学校協働活動への積極的な参画も進めていく。例えば、GIGAスクール構想により、小学校には児童1人につき1台の端末が配備されたが、ICTリテラシーが高い同校の生徒が、放課後の学童クラブに出向き、小学生にICTの活用方法を教えるといったことを検討中だ。

「地域の多様な人材を本校に招いて、教育活動を充実させるとともに、生徒が地域に出て活動し、貢献することで、地域と学校が一体となって生徒を育む環境を創出するという構想を描いています」（渡森副校長）

他校との連携も推進していきたいと、渡森副校長は語る。

「現在、各学校が、スクール・ミッションやスクール・ポリシーを検討していますが、他校と協力してそういった教育課題に取り組めば、他校の優れたやり方を参考にしたり、考えをより深めたりすることができ、短期間で質の高い方策を策定できるのではないかと考えています。今後も、市内外の高校と連携し、教育活動に関する様々な情報の共有を進めていきたいと思います」

副校長
渡森和彦
わたもり・かずひこ

教職歴34年。同校に赴任して2年目。

教務主任
篠田直弥
しのだ・なおや

教職歴26年。同校に赴任して3年目。
工業（電気）。

教務部
伊郷明敏
いごう・あきとし

教職歴6年。同校に赴任して2年目。
保健体育科。